
AI がまちがうことがある理由

① AI は「考えている」のではなく、「言葉をつなげている」

AI は、人間のように考えているわけではありません。
世界中の文章を読んで、「この言葉のあとには、どんな言葉が来ることが多いか」を予測して答えを作っています。
ですから、“それっぽいけれど、事実と違うこと”を言うこともあるんです。

② AI は「本をたくさん読んだ人のようなもの」

たとえば、百科事典を何十冊も読んだ人が、質問に答えてくれるとします。
その人は、たくさん知っているけれど、ときどき古い情報や思い込みも混じっているかもしれません。
AI も同じで、“たくさんの知識をもとに話しているけれど、まちがうこともある”ということです。

③ だから「本当かな？」と確かめるのが大事

「AI は先生ではなく、相談相手です。
話を聞いたら、“本当かな？”と Google や他のサイトでもう一度確かめてみましょう。」

まとめ

たとえ	説明
AI の頭の中	たくさんの本や記事を読んで覚えている
答えの作り方	言葉をつなげて「それらしい文」を作る
弱点	うっかり古い情報や勘違いを混ぜることがある
対処法	「聞き方」を工夫して、「本当かな？」と確かめる

講師コメント例

「AI は完璧ではありません。たくさん知っているけれど、考えてはいないんですね。
だから“本当かな？”ともう一度聞いてみるのが上手な使い方です。
“聞き方を工夫する”というのは、まさにここがポイントです。」

こんな時は確認しよう

① あれ？と思ったら、いったん立ち止まる

AI が言ったことが「ちょっと違うかな？」「聞いたことがないな」と思ったら、すぐに信じず、いったん立ち止まって確かめてみましょう。
その“気づき”が、正しく使える第一歩です。

補足トーク：

「人の話でも、“それ本当？”と思ったら調べますよね。AI も同じです。」

② 数字・固有名詞・日付などは要チェック

特に「〇年」「〇円」「〇%」「〇〇市」など、具体的な数字や名前が出てきたときは、
間違いやすいところです。
そんなときは“確認チャンス”と思って、他のサイトも見てください。

補足トーク：

「AI は“文章を作るのは得意”ですが、“細かい数字”はちょっと苦手です。」

③ 「どうしてそう言うの？」と聞き返す

ChatGPT や Copilot には、「その理由を教えて」「出典はある？」と聞き返すことができます。
会話のように聞くと、より正確で安心できる情報になります。

④ “間違い探し”ではなく“理解を深める”確認

確認するのは、「間違っているか」を見つけるためではありません。
「より分かりやすく」「より確かに」理解するためです。
つまり、“AI と一緒に考える”姿勢が大切です。

まとめ

こんな時は確認！	理由	確かめ方の例
聞いたことのない話	信頼できるか不明	Google でキーワード検索
数字・日付・人名など具体的な情報	間違いやすい	他のサイトで一致を確認
AI の説明がふわっとしている	あいまいな答え	「もう少し具体的に」と聞き返す
内容が古そうに感じる	更新されていない可能性	「最新の情報ですか？」と質問
